

所 公 民 館 員 会 版 内
行 丘 集 人 館 委 所
市 編 集 民 報 製 工
電 丘 公 民 報 刷 工
新 飯 田 市 商 工 会 館

新春放談会 話題になった運動公園

テーマ「住みよい地域づくり」

去る一月二十日恒例による
童丘地区住民新春放談会
が公民館において午後一時
より開催された。

新時代と云われる八〇年
を迎え人間らしい生活基盤
形成に向いどのように対応
しゆくのか、大きな課題を
背負い、公民館長挨拶に始
まりメインテーマは昨年同
様「住みよい地域づくり」
と題して、松沢市長始め地
区市議、各役員、有識者を
迎え、自治会から主催者側
公民館に至る十数団体、五
十余名の方々が一同に会し
それぞれの立場に立って意
見発言をして、市行政、地
区行政等に亘って中広く討
論がされた。

グラツと来たら 「火を消せー!!」

「明日来てでも不思議ではな
い」とまで言われている東
海地震。「防災対策強化地
域」という言葉も耳に慣れ
てきた。

昨年十月より進められて
きた防災組織づくりは、十
二月には自主防災連絡協
会(会長 塚平自治会長)
として発足した。委員によ
る先進地視察等得た体験
一具体的防災対策は、今
後地域の中へ活かされて行
くものと思う。詳しくは先
般合同発行された「自主防
災だより」に掲載されてお
り、二月二十一日付の中日
新聞には「この種の新聞で

安心して働ける職場と明る
い住みよい社会形成によっ
て福祉の高揚、文化、スポ
ーツ活動の高い飯田市に向
って意欲的に語られた。

民間福祉施設 あゆみ園誕生

日本経済の低成長下にお
ける福祉見直し、人間の心
を持った、地域に根ざした
福祉作りが叫ばれている今
日、飯伊地方に四百名余り
の精神薄弱者が、ひっそり
と福祉の谷間で過ごしてい
る。この現実をふまえ、精
神薄弱者通所授産施設「あ
ゆみ園(施設長・中島平吾
氏)が、この程、パイパス
新川橋の桐林側に完成した。
この施設は、民間主導の地
域福祉の高揚を目指すボ
ランティア「あゆみ会」(理
事長・宮内孝氏)が、管理
運営にあたっている。尚、
申請中に法人化と施設開始
の許可が下り次第、開設さ
れる予定である。

強くこれにかかわる道路整
備の早期着手と学校等諸施
設の早期着工の要望は地区
住民の強い要求として提言
された。

共に、職業を与えて自立さ
せる福祉見直し、人間の心
を持った、地域に根ざした
福祉作りが叫ばれている今
日、飯伊地方に四百名余り
の精神薄弱者が、ひっそり
と福祉の谷間で過ごしてい
る。この現実をふまえ、精
神薄弱者通所授産施設「あ
ゆみ園(施設長・中島平吾
氏)が、この程、パイパス
新川橋の桐林側に完成した。
この施設は、民間主導の地
域福祉の高揚を目指すボ
ランティア「あゆみ会」(理
事長・宮内孝氏)が、管理
運営にあたっている。尚、
申請中に法人化と施設開始
の許可が下り次第、開設さ
れる予定である。

文化村を受け継ぐ 第一回大学講座終了

「竜丘村を考へる」という テーマで開設した竜丘市民 大学講座も夏期三回(八月 二十七・二十九・三十一日) 冬期二回(一月三十一・二 月二日)で全日程を終了し ました。

「竜丘村を考へる」という
テーマで開設した竜丘市民
大学講座も夏期三回(八月
二十七・二十九・三十一日)
冬期二回(一月三十一・二
月二日)で全日程を終了し
ました。

大切な親子のふれあい —家庭のしつけ講座—

青少年の非行防止が叫ば れて久しい現在その年令は 年ごとに低下している現状 である。

この講座は、竜丘地区青少
年健全育成会が主催し、竜
丘公民館の後援で、二月二
十九日までの四回開かれた。
この講座(現在八十名余
のお母さん方が参加され、
それぞれ幼児期・小学校期
中学、高校期の三ブロック
にわかれ、更に十名程度の
グループに分れ、家庭生活
の中で困っている問題等を
出し合い、その中で具体的
なテーマを決め話し合い家
庭生活の中で実践する中で、
解決の糸口を見出し出して
いく方法で研究を進めてきた。
四週間の研修の中で、実践
を通じて、子供とのふれあい
ができ、親子の話し合いの
大切さを知ることができ、
この「しつけ講座」が有意
義のうちに終了した。
参加者の中から、継続的
な学級へ移行したい希望
がだされていた。

この講座は、竜丘地区青少
年健全育成会が主催し、竜
丘公民館の後援で、二月二
十九日までの四回開かれた。
この講座(現在八十名余
のお母さん方が参加され、
それぞれ幼児期・小学校期
中学、高校期の三ブロック
にわかれ、更に十名程度の
グループに分れ、家庭生活
の中で困っている問題等を
出し合い、その中で具体的
なテーマを決め話し合い家
庭生活の中で実践する中で、
解決の糸口を見出し出して
いく方法で研究を進めてきた。
四週間の研修の中で、実践
を通じて、子供とのふれあい
ができ、親子の話し合いの
大切さを知ることができ、
この「しつけ講座」が有意
義のうちに終了した。
参加者の中から、継続的
な学級へ移行したい希望
がだされていた。



開設間近のあゆみ園

随想リレー



今より養蚕が
盛んであった私
の子供の頃、夏
休みにになると柿
を拾いというこ
とをして小使いを稼いだも
のである。柿は畳の上に
敷く波紙や、
蚕に使う糸網
につけるもの
として必要な
ものであった。

少年の頃

長野原 関島寿穂

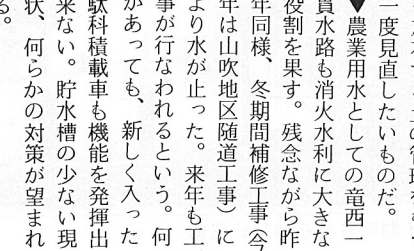
東の空が白
む朝四時頃家の者も寝てい
る中を起きて、いつもま
ったコースを、近くの柿の
木から落ちてくる実を拾っ
てまわるのである。友達も
皆拾っているのだからな
競争が激しく、少しでも遅
れをとると、全然拾えない
ものであった。

駄科に 新詰所と積載車

積載車が配置されたこと により、今までの可搬ポ ンプは一台が廃止となり、一 台は新井原の自衛消防へ払 い下げ、新 井原の旧ポ ンプは返納 となった。

昨年十二月、消防団駄科
班詰所が駄科公民館(諏訪
社)東側に完成した。又従
来の可搬ポンプに代わり、
積載車が配置された。
これは、市の第五次消防
力整備計画に基づき、昨年
十月から工事が進められて
いたもので、新築された詰
所は総工費三百五十四万円
をかけ、木造二階建て延約
四二、九平方メートル、新
しく配置された積載車もこ
の詰所に納められた。

積載車が配置されたこと
により、今までの可搬ポ
ンプは一台が廃止となり、一
台は新井原の自衛消防へ払
い下げ、新
井原の旧ポ
ンプは返納
となった。



強化された駄科消防拠点

▼八十年代がスタートした
今年、十年に一度の世界
農業センサスが行なわれた。
目まぐるしく変わる農業情
勢下、竜丘農業の中味は?
センサスの結果が待たれる。
▼食糧危機が叫ばれる中、
農業がマスコミヤ人々の声
では重要視されつつある反
面、兼業化、農地の流動が
進み、昨年から白菜の異
状高値、牛乳生産調整、そ
して今年度は、大幅減反が
要求されている。減反の竜
丘地区目標は、昨年度目標
の四十九増の二千六百九
十六アールである。これは
昨年度実績より四百三十ア
ール増となっている。五月
中旬には各農家の計画書が
取りまとめられる。市では
暗き排水、転作の為の種
苗費に助成がされる。しか
し「何を作ったら?」「こ
れといったいいものは無い
で...」等の消極的減反の
声の多い兼業農家の今後の
指導を切に望みたい。

▼物価上昇で、農業生産費
も増大している。農協も、
生産資材をいかに農家に安
く供給するか、もっと苦勞
して欲しい。農協も大型化
され、色んな専門農協以上
の規模を持つ市農協、中央
会・経済連だの組織も大切
であろうが、もっと独自の
個性ある活動を望む声は多
い。
▼省エネルギー時代の中で
土は無限の力を持っている。
健全な土は健全な食糧を育
て健康な人を育てる。健康
を左右する土の管理をもう
一度見直したいものだ。
▼農業用水としての竜西一
貫水路も消火水利に大きな
役割を果す。残念ながら昨
年同様、冬期間補修工事今
年は山吹地区随道工事)に
より水が止った。来年も工
事が行なわれるという。何
かあっても、新しく入った
駄科積載車も機能を発揮出
来ない。貯水槽の少ない現
状、何らかの対策が望まれ

村に音楽を広めた野口雨情

「歌碑」秋に完成

俺は河原の枯すき……の作詞家で世に知られる、野口雨情先生の歌碑を建てたいと「有志の人達、公民館」等は、過日建設委員会の組織を作り、その準備を進められている。

大正十二年、青年会の活動が、永い歴史の中より、自主化運動に変わり、青年達の手で、大きな事業に取り組み、竜丘に二人を招いた。

その頃野口雨情、中山晋平両氏は、コンビで音楽の勉強に励んでおり、竜丘に来る事が決った。当時、歌の勉強には、音譜が無く、二三で音階を表していた訳だが、この時野口雨情、中山晋平を招いた事により音譜(オタマジャクシ)のついた歌を学んだ。(その時、文部省では、音楽の革新教育を広めようとする折だった)両氏を招き、学校

講堂において、二日間に渡り、学童はもとより、親達も集り、歓迎発表会が行われ、地区民多くの人達に感銘をあたえた。ピアノが無く、やむなくオルガンで、童謡等聞かせ、音楽の教育に大きな新風をふき込んだ。以後、ドイツ製のピアノが、学校講堂に購入されたが、この事は、下伊那の学校では初めての事であり、音楽指導の中に大きく貢献したと言われている。

昨年「伊那の竜丘」が皆さんに公表されたが、これは雨情先生が生まれた茨城の実家に住む、息子の存弥さんが、全国を歩き父の残した数々の作品の中から、伊那の竜丘と記した養蚕の詩を見つけ出して連絡してくれた事がきっかけとなつて、竜丘の音楽教育に革新の道を開いた雨情先生

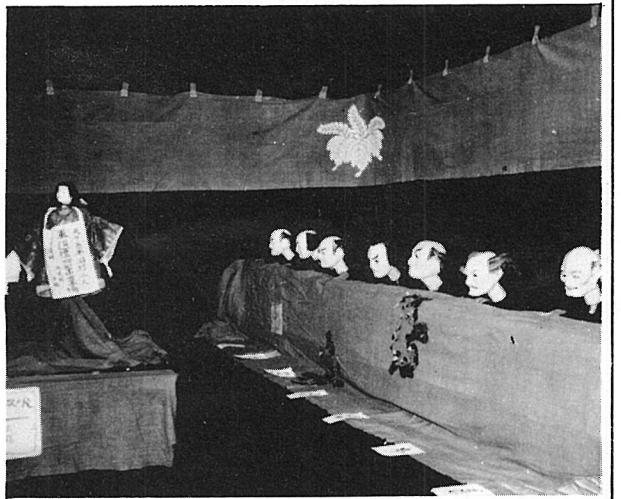
文化祭

注目された「桐林操り人形」

婦人会バザーも盛況

去る二月十日十一日竜丘公民館に於て、文化祭が行なわれました。十日午後からは、グループ、サークル等の今年一年間の活動発表会が行なわれました。今年度は自由画の展示や、民俗資料委員会による、桐林人形の展示が行なわれました。

采の一時でした。展示の部については、婦人学級、老人学級等の作品展に加え、今年度竜丘市民大学講座で取り上げた「大正時代の竜丘小学校の自由教育」の当時の自由画の展示や、民俗資料委員会による、桐林人形の展示が行なわれました。



初めて一般公開された桐林操り人形

広くなった時又公民館

時又公民館が改築されました。去る二月十六日には、改築した真新しいホールで時又の卓球大会が開催され、力いっぱい熱戦がくり広げられ、卓球の軽快な響きと参加者の大きな笑い声が流れていました。

この公民館の改築にあたっては、区民の多くの要求をどう反映し、どう実現していくか、そのための資金が展開された経緯がありました。

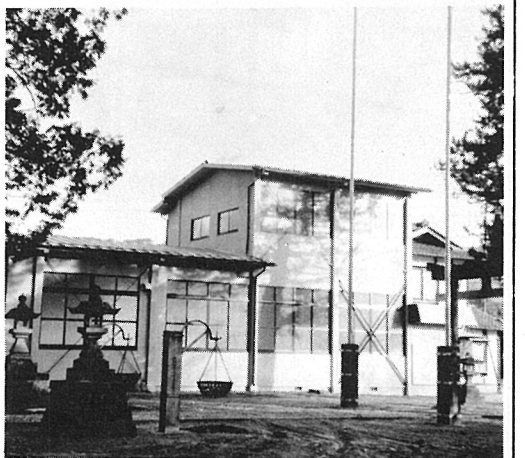
改築された公民館は、一階ホール(二十四坪)二階広間(十四坪)の規模となり、三階設置できる広さがあり、また、卓球台も近々設置される事となり、区民の卓球熱がますます高まる事と期待されています。

二階広間も今までの広間と合せその機能を果していかせよう。

資金面については総工費約一千万円(雑費除く)を要し、借入金金は七百五十万円となつています。

県からの補助金は六十万円です。

返済については各戸負担年千五百円、残額は通常区



ますます期待される時又公民館

あの人

(十一月一日〜二月二十日届出)

- ◎永遠に幸あれ
- 木下 三夫 駄科
 - 清水 千春 上村より
 - 中島 修一 桐林より
 - 中西 悦子 上飯田より
 - 熊谷 久 駄科
 - 岡庭 雅子 山本より
 - 川手 直明 竜江より
 - 湯沢とみ子 桐林より
 - 福沢 俊之 下条村より
 - 今村よし子 桐林より
 - 伊藤 孝雄 久米より
 - 下平 鎮子 桐林より
 - 上垣 静子 長野原より
 - 和地 静子 山本
 - 熊谷伊久夫 駄科
 - 辰沢みどり 横浜市より
 - 宇佐美 進 豊丘村より
 - 木下 桂子 上川路より
 - 萩原 秀成 長野原
 - 牧内恵美子 上川路より
 - 下平 昇 駄科
 - 田畑 栄子 川路より
 - 小島 潔 駄科
 - 篠田 陽子 上郷町より
 - 野竹 俊克 時又
 - 大和 紀子 松本市より
 - 橋本 正博 川路
 - 下田 峰子 時又
 - 佐々木 博 上飯田
 - 山村 和子 時又
 - 吉田 義貞 諏訪市
 - 前沢 春子 時又
 - 山田 一夫 駄科
 - 勝岡 民 阿南町より
 - 関島 利文 駄科
 - 松澤 台枝 阿南町より
- ◎伸びよ健やかに
- 橋爪 恭子 部廣
 - 井原 庸博 一強
 - 橋爪 新一 信夫
 - 桐生 政美 文博
 - 伊藤 典子 和典
 - 伊藤 典子 長典
 - 加藤みのり 秀夫
 - 小林 豊 伸
 - 三村もと子 上飯田より
 - 川手 博一 長野原
 - 三浦 義一 泰阜村より
 - 関島 隆夫 駄科
 - 伊藤 良子 町より
 - 尾曾 洋子 下久堅より
 - 伊藤 直人 上飯田
 - 池田 美子 駄科
 - 林 克己 駄科
 - 肥後さち子 下久堅より
 - 吉川 哲雄 駄科
 - 今井まゆみ 豊科町より
 - 久保田和孝 豊科
 - 上島 憲一 東中央通り
 - 伊東 千鶴 辰野町
 - 天野 昭夫 佐久間町
 - 高橋 敏子 桐林より
 - 高橋 正美 宮城県
 - 市瀬 正一 上川路より
 - 渡辺 京子 喬木村
 - 田中 良明 時又
 - 今村よね子 長野原より
 - 平松 正好 長野市
 - 牧ノ内昭子 桐林より
 - 林 英子 長野市
 - 原 小太郎 長野市
 - 大平 啓司 桐林
 - 熊谷 留吉 桐林
 - 今松 水一 時又
 - 吉川おはる 時又
 - 原 真 桐林
- ◎御冥福を祈る
- 伊原 純久 時又
 - 熊谷 純久 時又
 - 牧島 誠 時又
 - 伊藤 純久 時又
 - 氏名 部落性 年令
 - 井口志やう 女 九四
 - 林 幸一 男 七二
 - 林 熊一 男 七二
 - 牧内 貞吉 男 八一
 - 伊藤 貞 男 八一
 - 沖田 重男 男 八一
 - 所澤 敬子 女 三九
 - 八木美佐雄 男 五九
 - 岡島よしみ 女 八四
 - 牧之内と子 女 七四
 - 小林 英子 女 七四
 - 原 英子 女 七四
 - 大平 啓司 男 五九
 - 熊谷 留吉 男 五九
 - 今松 水一 男 五九
 - 吉川おはる 女 五九
 - 原 真 男 八四

鉛筆について

長野原のお日待ち祭りは一月三十一日に行なわれていたが、元来は三十一日から二月一日にかけて行なわれていたという。いつの頃から始まったのか、その由来についても記録は一切残っていない。古老の話によれば、前年に慶事(嫁とり新築等)のあった家を宿とし、宿には祭壇を設け正面に天照皇大神宮の掛軸をかけ灯明と供物をする。各戸の主人か代理人が参集し祭壇に参拝し、持参の肴で酒宴が始まる。夜更けになると宿で粥の振舞をうけ、四方山話をしたり民謡を唄ったり踊ったりし、又、たくさん大きな数珠を太い紐に通して輪にしたもの(現

長野原のお日待ち祭り

祭会場が集会場(現在の日の出に礼拝することはない)になり、各組合も当番を除いて婦人の参加はなく、当番の婦人も宴の席にはでないという古い習慣が残っている。

長野原の人口増加はいちじるしく五十年前約四十五戸であったのが現在はその



お日待ち祭りで楽しむ長野原の子供たち

スポーツ大会終る

竜丘地区のバドミントン大会が昨年末に、卓球大会が二月末に竜丘小体育館で行なわれた。結果は左記の通り。

・バドミントン大会

- 一位時又、二位駄科、三位桐林、四位長野原、五位上川路
- ・卓球大会
- 一位桐林、二位時又、三位